

官民共同研究による実証実験のお知らせ

国内初の漏水調査実施

富士市水道事業では、令和5年度から、水道管路の維持管理効率化や有収率向上等をテーマとして、インフロニア・ホールディングス株式会社、インフロニア傘下の前田建設工業株式会社との3者で官民共同研究を行っています。

本共同研究では、漏水記録のデータやAI等を活用した管路の劣化予測やリスク影響の評価を実施するとともに、管路の予防保全管理で有用な技術等を調査検証しており、非開削による管路の状態監視技術であるePulse（イーパルス）（エコロジクス社（本社カナダ））に着目し、本市をフィールドとした実証を行うこととなりました。

ePulseによる調査診断により、管路の漏水、破裂の要因である管厚を地面を掘り返すことなく調査することができ、設置時の設計管厚に対する減少率を解析することにより、将来的に漏水や破損が発生する可能性の高い老朽管を特定し、優先的に更新することができます。

本市では、喫緊の課題となっている有収率向上に向け、これまでの事後保全を中心とした管路管理から予防保全管理を実践していくために、積極的に民間の保有する先進技術等の活用を検討していく予定です。

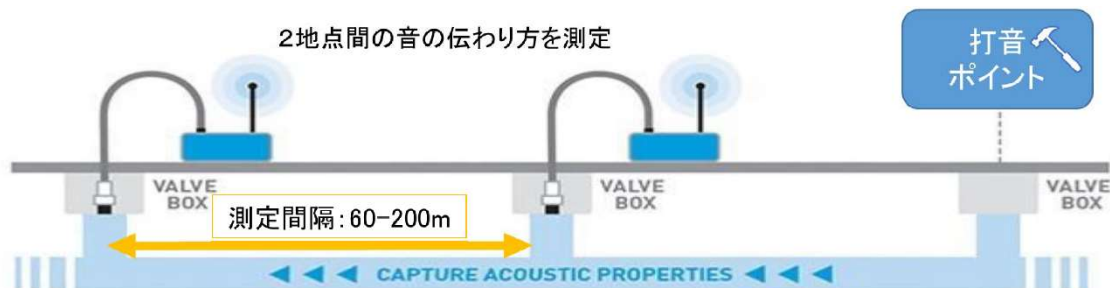
なお、ePulseの実証は令和6年9月30日～10月2日にかけて実施します。

調査概要

項目	詳細
計測手法	音響圧力波の管厚による速度の違いにより劣化度合い（配管の残存（平均）管厚）を計測（計測精度は±10%）
対象管路	ダクタイル鋳鉄管、普通鋳鉄管等鉄系管路、口径450mm以下 ※ 調査箇所については老朽度評価結果等を踏まえ選定
調査箇所	富士水系、神谷水系
調査スパン	60～200m
実証延長	1.0Km程度（本市での合計調査延長）
実施時期	2024年9月30日～10月2日



調査機材



調査方法